

## ☆医ケア児の在宅生活を支援 宮崎市に民間施設、4日から運営開始

【西日本新聞 me】 2021/10/2

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/809701/>

> 医療的ケアが必要な子ども（医ケア児）の在宅生活を支える宮崎市の民間施設「HALE（ハレ）たちばな」の開所式が1日あった。宮崎県内は医ケア児が利用できる施設が少なく、短期入所を受け入れるなど介護する家族の負担軽減も含めた総合的な支援を行う。4日に運営を始める。

施設は市中心部の橘通東3丁目に新築された3階建て。同市の認定NPO法人「ホームホスピス宮崎（HHM）」（市原美穂理事長）が運営する。医ケア児を数日受け入れる「短期入所」（定員5人）や日帰りの「日中一時支援」（同10人）のほか、医師の訪問診療も行う「診療所」や訪問看護ステーションを設けた。

宮崎大医学部と連携して学生を地域医療に携わる人材として育成する「研修ルーム」や、医ケア児や家族と市民が交流できるコミュニティカフェもあり、医ケア児を取り巻く環境の改善を目指す。施設名は「大きな家」を意味するハワイ語（ハレ）と建設地の地名にちなんだ。

ホームホスピス宮崎は、がんを患う認知症の高齢者など病院からも福祉施設からも敬遠されがちな人の地域生活を支援。空き家を活用した高齢者の共同生活施設「かあさんの家」を市内3カ所で運営する。市原理事長は「ハレたちばなを一般の市民も交流できる場所に育て、地域共生社会の一翼を担いたい」と語った。

...などと伝えています。

医ケア児の支援施設「HALE たちばな」の開所式＝1日午前11時ごろ、宮崎市

